

第110回フォト句優秀作品（20年11月16日）



飽きぬ秋散れば散つたで

飴細工（三春）



空分ける

ジグソー・パズル

秋の森（進一郎）

ハテハテと

鴉も喰わぬ
熟柿かな(正二)



お客さん!

冷やかしならば

帰つとくれ(進一郎)



寸 評：今日はユニークな作品が揃った。

1) 飽きぬ秋散れば散ったで飴細工 三 春

紅葉が散ったあとの幹の曲がりくねりを飴細工に例えたセンス。また平凡な画面が続くのを避け、視点を中心に向けるために画面を機能形にきりとったセンスを買いたい。

2) 空分けるジグソーパズル秋の森 長尾 進一郎

何の変哲もない森の上空を撮り、林の隙間から見た空の模様をジグソーパズルに例えた感覚は鋭いものがある。。

3) ハテハテと鴉も喰わぬ熟柿かな 矢澤 正二

鈴なりの見事な柿の実にへんてこな句が付いた。思わず口をついた言葉だろうが、ハテハテの措辞は言いえて妙。論評するにもハテハテと悩む次第である。

4) お客様冷やかしならば帰つとくれ 長尾 進一郎

屏の隙間に隠れていた蝦蟇。居酒屋の女将が、暖簾をまくり顔だけみて帰る客に向かって言うようなセリフが上手く嵌っている。フォト句ならではの作品である。



御題写真

寸 評：安藤さんの出題で、老木から若芽がでている写真。

1) 身をよじり老木若芽ひねり出す 中村 晃也

傷口の生々しい、なんとも悲惨な姿の老木である。それでも
身をよじって新しい命を世に送り出す執念を感じる。

2) 森の中いのちのリレー 肖々と 大月 和彦

この作者大月さんは、いつもきれいな句を提供してくれる。
今回もいのちのリレーという上手い措辞を用いて森の木々の
世代交代を「肖々」と言う適切な言葉で表現している。

3) 老骨や腹かつさばいて意地みせる 三 春

成程老木の下腹部にひどい傷があるが、若芽を息吹かせる意気込みが感ぜられる。人間でいえば盲腸の手術をしても子供を産ませるだけの根性があるというわけか？

または「老いの一徹」をさまざまと想起させる句ではある。

4) 冬日和老いの一徹狂い咲き 矢澤 正二

老いの一徹狂い咲きとはうまい表現だが、それにも増して冬日和という穏やかな季語をあつらえた詩心に感動した。お題写真からは冬とは思えないけれど、ここでそれを咎める必要はないだろう。

以 上